

氏名	門田康孝
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5204 号
学位授与の日付	平成 27 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Risk factors for surgical site infection and delayed wound healing after orthopaedic surgery in rheumatoid arthritis patients (関節リウマチ患者に対する整形外科手術における手術部位感染および創治癒遅延に関するリスク因子の検討)
--------	---

論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 西崎和則 教授 草野展周
--------	-------------------------

学位論文内容の要旨

生物学的製剤の登場により、関節リウマチの治療は大きく改善された。しかし、術後の手術部位感染や創治癒遅延に対する生物学的製剤の影響は議論の残るところである。我々は整形外科手術 1036 例について手術部位感染および創治癒遅延の発生率を調査し、患者背景からリスク因子について多変量解析による統計学的検討を行った。1036 例中手術部位感染 19 例(1.83%)、創治癒遅延が 15 例(1.45%)、そのうち生物学的製剤を使用していた 198 例においては手術部位感染 1 例(0.51%)、創治癒遅延が 3 例(1.53%)であった。多変量解析の結果、手術部位感染に対して足部・足関節の手術が、創治癒遅延に対して人工膝関節置換術および罹病期間がリスク因子であることが示された。生物学的製剤の使用は手術部位感染および創治癒遅延のリスク因子として関連は認めなかった。

論文審査結果の要旨

関節リウマチの治療は、生物学的製剤の開発により大きく改善されてきた。しかし、術後の免疫能の低下や創部創傷治癒の遅延などの合併症を引き起こす可能性がある。申請者は、過去 9 年間のリウマチ患者の整形外科手術 1036 例において、術後の合併症と生物学的製剤の関係を後ろ向きに明らかにしようとした。結果として、人口膝関節手術と罹病期間は創部治癒遅延に影響し、感染症の発生は足部の手術に関係するものの、生物学的製剤との関係は認められないことを明らかにした。今後は、生物学的製剤の休薬期間などとの更なる研究が必要とされるが、生物学的製剤と術後合併症との関連性の基礎的データを示したことになる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。